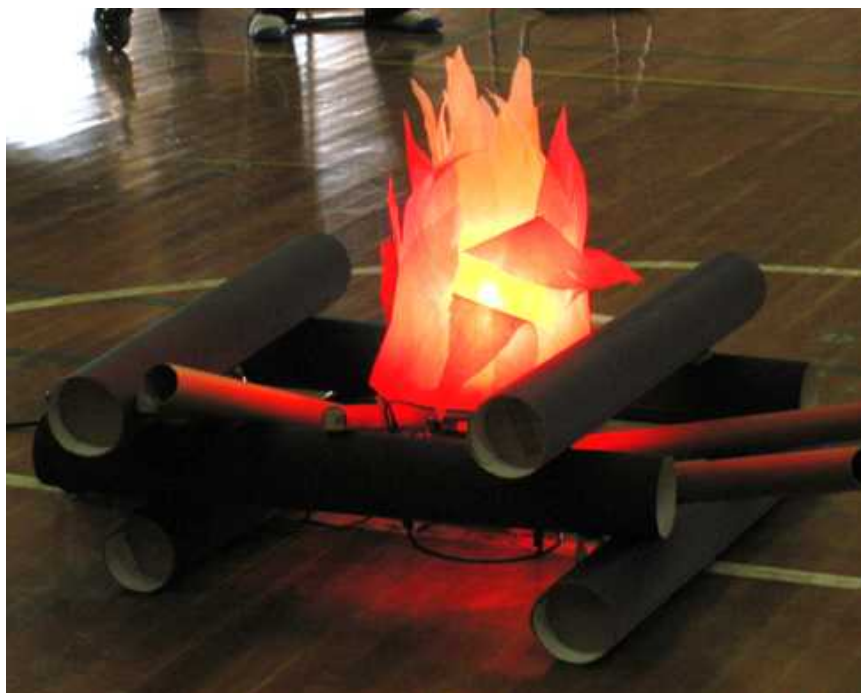


教材教具名 バーチャルファイアー

教科(総合)

教材教具写真



教材教具の概略(ねらいと使い方) 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

- 1 ねらい 野外活動のキャンプファイアーの練習として、実際の火が使えない教室等でファイアーのイメージをさせる
- 2 発達段階 中学部2年野外活動参加者全生徒対象
- 3 使い方 キャンプファイアーの入場から退場までの一通りの流れの練習としてバーチャルな空間を演出する。入場時には、炎(電球)を点火させず、バーチャルトーチから井桁へ火を近づけるタイミングを見計らって電源を投入する。バーチャル炎(電球)は赤く発光し、不織布を赤く照らし更に下からのブLOWER(送風機)により炎が揺らぐ。このシミュレーションを繰り返すことにより、実際のファイアーの場面でも生徒が戸惑わないで行事に参加できる。

児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)

野外活動の練習でも、ファイアーが赤く光ったり揺らいたり視覚的に生徒が関心を示し、実際の野外活動でのファイアーのイメージづくりができた。更に、サイリスタ等の調光回路で不規則なゲート信号を用いて電力制御を行えばもっとリアルな炎が再現できるだろう。材料も本体は、百円均一の品が殆どで本体は金属ワイヤー製の鉢置き、電球や送風機の固定台は七輪用の焼網を使っている。ただ、送風機は新品を買うと高価なので廃棄処分済みのプロジェクターのものを流用した。備品点検などで廃棄品が出るがPCや視聴覚機器にはパーツ(電球・スイッチ・コード・ブLOWER・半導体等)として使える物が結構眠っている。それらを有効に活用してみるのも面白い。